

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500397		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ハートいなば(1番館)		
所在地	岐阜県各務原市大野町2丁目224番1号		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&i_gyosyoCd=2170500397-00&PrEfCd=21&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成30年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日中は皆さんフロアで過ごされ会話が多く、スタッフと利用者様、利用者様同士で 馴染の関係が出来ています。お互いの好みや趣味を理解し 共にカラオケや作品に取組み、オセロ・トランプ等で楽しみある時間を共有しています。家事が得意の方には日課とし、台所仕事や洗濯タミ等分担し 積極的にお手伝いして下さる毎日です。来訪して下さるボランティアさんや、見学にみえる地域の方と定期的に会える事、お喋りできる事を皆さん楽しみにしておられます。イオンで開催の介護事業所作品展覧会へ2年連続出展し、地域の皆様からもお声をかけて頂く機会も増えました。週2回のおまかせメニューの日は、広告を見ながらリクエストを調査し反映しています。体調をみて臥床できる環境を提供し、無理をされる事なく、家族のように真心(ハート)のこもった介護をスタッフ一丸となり続けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にある「感謝」の言葉の通り、何事にも感謝の気持ちを表し、利用者に対して介護する、されるの関係ではなく、むしろ日常生活を共にする視点に立ち、利用者の主体性を尊重したごく自然な介護を実践している様子が感じ取れた。玄関や廊下、リビングは全体的に明るく、壁面には色紙や新聞紙、卵の殻を着色したちぎり絵をはじめ、様々な素材の作品があり、作る人や見る人にとって、飽きのこない工夫がされていた。これらの作品を商業施設の展覧会に出品したり、皆で鑑賞に行くことで、外出の機会が増え、また、そこでの住民との交流や様々な作品群を見ることで、作品作りに意欲を持つ等、利用者の活性化にもつながっているとのことである。職員研修については、本社から講師を招き、毎月研修を行い、その中で日頃の振り返りも行っている。住宅が少ない地域であるが、地道に関わりを持ち続けた結果、定期的に開催するオレンジカフェでは、町内の方が毎回来訪されるようになってきたとのことである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人に感謝、日々に感謝、地域に感謝」を理念に掲げ、管理者や職員は介護の仕事をさせて頂いている喜び、感謝をとて感じている。	出勤や退勤時に、「宜しくお願いします。」「今日も良いメンバーと仕事ができ良かった。」と感謝をこめて職員同士で声をかけ合っている。また利用者の存在により、職員は「仕事をさせていただける」と考え、感謝の理念を共有し、日々家族のように関わり、感謝の気持ちを持って支援にあたる等、理念の実践に心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入はしているが地域交流は少ない。ホームには定期的にボランティア来訪があり、それに併せオンジカフェを開催し地域に呼びかけている。運営推進会議には3、4名地元役員が出席して下さる。作品展への出展も行っている。	地域に開かれたホームとして、3ヶ月に1回、カフェを開催し、毎回地元住民の方々の参加を得る等、地域との交流につながっている。また、利用者にとっても日頃練習している手話をしながら歌うことを披露する等、カフェは楽しい発表の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後も散歩等を通して、地域の人々に認知症の方の理解や支援をお願いしていきたい。公民館のバリアフリー工事も済み 地域の「いきいきサロン」に施設利用者の作品展示をして頂いた。今後交流会などへの参加を目指したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。自治会役員、近隣ケア、民生委員等の代表者や地域包括支援センター、市担当者や情報や意見交換を行っている。現状報告の場を設けている。	運営推進会議に来てもらえることに感謝し、各参加者の視点で、アドバイスをもらい、ホームのサービス運営に役立てている。例えば、地域包括支援センターの紹介で商業施設の作品展に利用者の作品を2年連続出展しているとのことである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村に、運営推進会議を通し報告、相談をしている。研修会等にも出来る範囲で参加している。	運営推進会議が地域包括支援センターや市担当者との情報交換の場となっている。公的扶助の関係や医療と介護の関係等、疑問点はその都度相談したり、受け入れの問い合わせに回答する等、日頃から協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」は理解している。今後身体生命の危険が伴う場合は市町村に報告し、家族に文書で同意をもらうように説明していく方針である。危険防止策としてベットのセンサーマットを使用している方もいる。	身体拘束をしないケアについて職場内研修を実施する等して、職員の研鑽に努めている。拘束3要件に照らして、必要がある場合には家族の同意の上、一時的に行う場合があるが、すぐ解除に向けて検討する等、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の虐待は一切無い。更に今後も今までのように身体的・精神的虐待の防止に努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは現在は対象者1名。今後、必要に応じて活用し、勉強会もどんどん増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文書と口頭にて十分説明をし、トラブルの無いように努めている。危険行為がある際は家族報告、対応の相談を実施する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の「便り」と、信頼関係により、利用者・家族も意見、疑問、苦情を言える雰囲気であり、運営に反映させている。面会時御家族と職員で会話をしよう努めている。苦情受付ポスト設置し 言い難い際は利用して頂く。	実際に家族から苦情受付ポストに投函してもらったり、面会時に職員の言葉遣いについて指摘をしていただくことがあるので、その際には家族の思いを聴き、誠実に対応している。また、満足度アンケートも実施し、ホームとして家族の意見に耳を傾け、いただいた意見をホームの運営に活かすべく取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議を開き、職員が何でも意見が言える雰囲気である。また随時、職員同士で話し合う機会を設け反映している。	申し送りノートがあり、毎日確認し、引き継ぎをしている。毎月の職員会議を勤務時間内に行っており、会議の中で意見をもらい、ホームの運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員等にも、賞与や交付金があり、また労働条件が良く高齢の職員も活躍できる職場である。しかし、職員退職の事実もありスタッフ確保には苦労がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は、職員会議に加え、月に1度講師を招き行っている。法人外の研修情報を収集し、研修参加率を上げるよう、シフト調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会が少ないが 参加可能な機会は積極的に参加の努力はしている。ユニット間の交流は出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安が多い入居初期には特に力を入れ、職員全員で利用者様の言葉に耳を傾け、聞く体制をとっている。又モニタリング強化し、スタッフ間周知に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	長年積み重ねた状況を聞きだし、家族等が困っている事・不安な事・要望等に耳を傾け信頼関係を築いている。入所後の連絡も必要に応じ取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの長所なども説明させて頂き、本人、家族の事を第一に考えるように努めている。希望があれば他のサービス事業所と連絡をとったり、紹介させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者様も家族のように共に支え合い、尊重し生活している。役割を持った生活が出来の様役割分担している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも事実を報告し、何でも言い合える関係を作っています。電話対応・盆正月帰省の外出へも協力して頂くようお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族が親族と共に時々ホームに尋ねて来て頂ける。最近では定期的ボランティア来訪や地域の参加者とも顔見知りの関係となった。行きつけの床屋継続、地元の敬老会へのお誘い等は家族協力により出かけている。	面会時間は夜間帯に来訪する家族等にも配慮している。例年、秋季に開催される地域行事の中の餅つきの見学に行き、地域の人々とふれあったり、懐かしい餅つきの雰囲気を出し、味わってもらう機会とする等、馴染みの人や場の関係継続の支援に向けた取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の利用者様同士の様子をさりげなく観察しよい関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後は、家族からの連絡があれば必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の希望、意向に添った生活ができるよう心がけている。訴えの出来ない方に対しては、日々の記録に残し担当スタッフが中心に情報共有に努め、皆で最良の方法を検討している。	日々のレクリエーションや入浴、食事等の場面で本人の思いを聴き、利用者主体の視点に立った対応を心がけている。具体的には、「働くことが好き」という方に、モップがけを頼んだり「お餅が食べたい」という方は家族に伝え、自宅で食べていただく等、利用者一人ひとりの思いや希望に沿ったケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員が利用者様の生活歴を把握して、その人らしく生活できるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のペースで過ごして頂くように、心がけている。個別に出来る家事への協力を無理の無い様にして頂いています。他者の様子を見て協力者が増えてきています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族等とは電話や面会時お話をしてお話を聞いて要望をお聞きしている。職員間では会議でモニタリングの結果をふまえ、介護計画を練ったもと、プラン作成している。日々の会話の中から御本人のニーズを読み取り、Dr指示をプランに組み込み実施している。	電話や面会時に家族に現状を報告すると共に意見を聞き、それを踏まえて、ケアプランを作成している。ケアプランの作成にあたっては職員間で会議を開いて検討し、現状に即したプランを作成している。	家族の意向をよりケアプランに反映させるため、利用者の現状と生活課題を家族と共有し、家族の思いやQOL向上のアイデア等を話していただくよう、今後も場面設定やヒアリング方法等の工夫に向けた取り組みの継続に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録・業務日誌の他に、申し送りノートを作り、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出は不調でない限り自由にして頂いている。スタッフと共に買い物兼ねた散歩をし、希望のおやつを選択し購入する事で満足感を得て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、民生委員、消防等とは連絡を取り、安全で豊かな暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、週一回(707毎交互、隔週の頻度)主治医の往診に来て頂いている。緊急時は随時報告し、往診対応して頂ける。その他の受診は家族依頼し、困難な場合は職員が連れて行っている。	かかりつけ医の選択は自由である。ホームの協力医の場合は定期的な往診があり、緊急時の連携体制ができている。従来のかかりつけ医や他科受診の場合は、家族同行であるが、情報提供を行い、受診の情報も共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの看護師に常時連絡できる体制を築いている。夜間・緊急時には迅速に対応し、指示を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した利用者様には週1回は訪問し状態を把握している。家族の支援が困難な利用者様には家族に代わって洗濯等の必要な援助も行っている。普段より病院の相談員とは連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と提携医、職員が話し合い、思いを共有してターミナルケアを経験させて頂きました。大変勉強になり、重度化すると思われる今後も希望があれば、方針を共有して支援に取り組んでいきたい。	家族の希望に沿って医療関係者と職員がチームとなり、終末期の看取りの経験を重ねている。その経験の積み重ねから知見を広げるべく看取りケアについて職員間で学びを深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は心肺蘇生法の講習を受け、初期対応の訓練を行っている。今後も定期的に講習を依頼する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っている。運営推進会議等で地域との協力体制をお願いしている。緊急時に備え 居室入口に個々の移動手段が解るようしてある。	消防署の助言を得ながら、定期的な避難訓練を実施している。災害発生時には近隣の職員が対応できる体制を確保し、飲料水や乾パン等備蓄し、災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が、一人ひとりの人格を尊重するように心がけて、人生の先輩として言葉遣い等も気を付けている。研修の題材とし周知に努めている。	利用者一人ひとりの個性やその人の歩んできた人生を尊重し、支援にあたっている。入浴や排泄時のケアにあたっては、プライバシー保護の観点から声かけや対応に注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様には自由に思いを言ったり選択できる状況を作っています。スタッフも共に食事を摂る事で会話の時間を設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切に、居室、フロアで自由に過ごして頂いています。全体の行事には参加して頂ける様声掛け実施。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室に来てもらい、希望者は毛染めも出来ます。家族協力で出かけて行って好みにカットして頂く方もいます。化粧品などの購入依頼は適宜対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる方には準備や盛り付け・後片付けを手伝って頂いています。献立作成は利用者様の意見や好みを反映し、調理は軟らかく煮て、各人に合せ刻む等工夫している。	利用者の能力や状況に応じて、調理の準備や片づけ等を手伝ってもらっている。利用者の意見を聞きながら、協力して献立決めをし、共に調理し、共に食事をする等して食事が楽しみなものになるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的で栄養バランスを考慮した献立作成し、食事・水分摂取量を記録し全職員が把握出来るようしている。介助を有する方へはこまめな水分補給を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方には、毎食後歯磨き等して頂いている。できない方は、職員が介助し、口腔ケアの重要性を理解している。個別に口腔スポンジ購入。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやパターンを観察して声掛け、誘導、介助、見守りを行っている。さりげなく介助し、本人の負担にならないよう心がけている。夜間見守り強化している。	利用者の行動や表情等を観察し、排泄リズムや時間帯等を把握し、誘導しながら、トイレでの排泄や紙パンツから布パンツの使用へと自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	旬の物・食物繊維の多い食品・乳製品を使用して調理したり、ラジオ体操、レクリエーション、散歩等を心がけている。必要な方には服薬調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴担当のスタッフによる安全でゆったりと介助支援実施。利用者様の希望の入浴順番、湯かげん、入浴する時間に配慮している。	利用者思い思いのスタイルで入浴が楽しめるよう支援にあたっている。入浴担当者が利用者一人ひとりの身体状態や入浴の状況を記録し、職員間で情報の共有化をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様には自由に休息して頂いている。家で過ごしている時のように、就寝時間も特に決めておりません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人薬ファイルは事務所にあり、職員全員が確認理解できる。利用者様の症状の変化を観察して、主治医報告しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験が活かせる場所を提供し、その人らしい暮らしができるよう支援している。裁縫・家事・衣類の修正も得意な利用者様に協力して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられる支援は厳しい状態である。希望の利用者様は家族協力のもと、外出して頂いています。近所への買い物や日光浴程度の外出は希望時行っている。1Fは誕生月の方対象に、ケーキ屋へスタッフがお連れし、好みの物を食べに行く取り組みを始めた。	近隣への散歩、地元商店等での買い物、理美容院での外出支援に加え、春、秋年2回の遠出の支援を行っている。また、誕生月にはケーキを食べに外出したり、お盆等には家族の協力の下、帰宅したり、墓参りをする等している。	新たに家族会を開催されるとのことである。この機会に家族との散歩の時間を設け、家族と触れ合いながら、外出の機会を増やされることも一案と考える。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の者には財布を金庫で保管管理している。普段はお金を預かっておらず、必要なものは家族連絡し依頼又は立替えにて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話は自らかけて頂いている。事前に御家族にも不穩時の連絡へは御協力の依頼をしており、対応して頂いています。中には電話も拒否の家族もある現状です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段は静かな過ごしやすい環境である。快適に生活出来るよう個々の居室にエアコンがあり、温度調整を行っている。フロアも常に温度湿度を快適に保っている。	玄関や廊下等の空間は、利用者の見事な貼り絵の大作に目を奪われる。リビングでは塗り絵をしている人、おしゃべりをしながら爪を切ってもらっている人、廊下でボウル回しを楽しんでいる人、そこかしこで利用者が生き生きとして過ごしている様子が見て取れた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で過ごせるよう 並んで会話のできるソファを配置した居間空間、居室で語らう等自由に生活して頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスに関しては会社で用意しましたが、馴染みの持ち物を持ってきて飾る等自由にして頂いています。	居室入り口には名札が掲示されている。訪問時には利用者の方が部屋を案内して下さった。花好きが感じ取れる飾りつけの部屋、車いすでの生活がしやすいように空間が広くとられた部屋等、それぞれに過ごしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がすべて行ってしまわず、そばに付き添って声掛けを行い、本人の力を引き出し残存機能低下防止に努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500397		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ハートいなば(2番館)		
所在地	岐阜県各務原市大野町2丁目224番1号		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2012_022_kani=true&i_gvosvoCd=2170500397-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成30年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の入れ替わりは有るものの、大野町へ移転したH22当初からの利用者様や、介護度重度化に伴いスタッフの介護負担は増えていますが、より良い介護が提供出来る様日々努力しています。体調が悪い方以外は、フロアで過ごして頂き、常にスタッフが目の届くようしています。皆でTV鑑賞を通し談笑したり、カラオケ、体操をし刺激ある時間を設けていますが、参加出来る利用者様は限定されており、見学して頂くのみの利用者様が現在の現状です。イベント時には1階へ移動し参加しています。様々な要望や訴えに傾聴し、安心できるお声掛けにて 穏やかな毎日を過ごせるよう真心(ハート)のある介護に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人に感謝、日々感謝、地域に感謝」を理念に掲げ、管理者や職員は介護の仕事をさせて頂いている喜び、感謝をととても感じている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入しているが住宅地が少なく地域住民との交流はあまり出来ていない状態である。ホームには時々ボランティアが来て頂ける。運営推進会議には地域住民より代表3名の出席がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後も散歩等を通して、地域の人々に認知症の方の理解や支援をお願いしていきたい。公民館のバリアフリー工事も済み 地域の「いきいきサロン」に施設利用者の作品展示をして頂いた。今後交流会などへの参加を目指したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。自治会役員、近隣ケア、民生委員等の代表者や地域包括支援センター、市担当者と情報や意見交換を行っている。現状報告の場を設けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村に、運営推進会議を通し報告、相談をしている。研修会等にも出来る範囲で参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」は理解しているが、身体生命の危険が伴う場合は市町村に報告し、家族に文書にて同意をもらうように説明していく方針である。ユニット間の自由な行き来に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の虐待は一切無い。更に今後も今までのように防止に努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは現在は対象者1名。今後、必要に応じて活用し、勉強会もどんどん増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文書と口頭にて十分説明をし、トラブルの無いように努めている。危険行為がある際は家族報告、対応の相談を実施する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の「便り」と、信頼関係により、利用者・家族も意見、疑問、苦情を言える雰囲気であり、運営に反映させている。面会時御家族と職員で会話をしよう努めている。苦情受付ポスト設置し 言い難い際は利用して頂く。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議を開き、職員が何でも意見が言える雰囲気である。また随時、職員同士で話し合う機会を設け反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員等にも、賞与や交付金があり、また労働条件が良く高齢の職員も活躍できる職場である。しかし、職員退職の事実もありスタッフ確保には苦労がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は、職員会議等で行っている。法人外の研修情報を収集し、研修参加率を上げるよう、シフト調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会が少ないが 参加可能な機会は積極的に参加の努力はしている。ユニット間の交流は出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安が多い入居初期には特に力を入れ、職員全員で利用者様の言葉に耳を傾け、聞く体制をとっている。又モニタリング強化し、スタッフ間周知に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	長年積み重ねた状況を聞きだし、家族等が困っている事・不安な事・要望等に耳を傾け信頼関係を築いている。入所後の連絡も密に取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの長所なども説明させて頂き、本人、家族の事を第一に考えるように努めている。希望があれば他のサービス事業所と連絡をとったり、紹介させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者様も家族のように共に支え合い、尊重し生活している。役割を持った生活が出来の様役割分担している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも事実を報告し、何でも言い合える関係を作っています。電話対応・盆正月帰省の外出へも協力して頂くようお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や古い友人は時々ホームに尋ねて来て頂ける。最近では大野町のボランティアさんも定期的に来訪して頂けるようになった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の利用者様同士の様子をさりげなく観察しよい関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後は、年に一回程お便り発送している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の希望、意向に添った生活ができるよう心がけている。訴えの出来ない方に対しては、日々の記録に残し担当スタッフが中心に情報共有に努め、皆で最良の方法を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員が利用者様の生活歴を把握して、その人らしく生活できるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のペースで過ごして頂くように、心がけている。個別に出来る家事への協力を無理の無い様にして頂いています。他者の様子を見て協力者が増えてきています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族等とは電話や面会時お話をし要望をお聞きしている。職員間では会議でモニタリングの結果をふまえ、介護計画を練ったもと、プラン作成している。日々の会話の中から御本人のニーズを読み取り、Dr指示をプランに組み込み実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録・業務日誌の他に、申し送りノートを作り、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るときは外出するように心がけている。買い物を兼ねた散歩をし、希望のおやつを購入したりし満足感を感じて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、民生委員、警察、消防等とは連絡を取り、安全で豊かな暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、週一回主治医の往診に来て頂いている。緊急時は随時報告し、往診対応して頂ける。その他の受診は家族依頼し、困難な場合は職員が連れて行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの看護師に常時連絡できる体制を築いている。夜間・緊急時には迅速に対応し、指示を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した利用者様には週二、三回は訪問し状態を把握している。家族の支援が困難な利用者様には家族に代わって洗濯等の必要な援助も行っている。普段より病院の相談員とは連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と提携医、職員が話し合い、思いを共有してターミナルケアを経験させて頂きました。大変勉強になり、重度化すると思われる今後も希望があれば、方針を共有して支援に取り組んでいきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が心肺蘇生法の講習を行い、随時、初期対応の訓練を行っている。今後も定期的に講習を依頼する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っている。運営推進会議等で地域との協力体制をお願いしている。緊急時に備え 居室入口に個々の移動手段が解るようしてある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が、一人ひとりの人格を尊重するように心がけ、人生の先輩として言葉遣い等も気をつけております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様には自由に思いを言ったり選択できる状況を作っています。スタッフも共に食事を摂る事で会話の時間を設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切に、居室、フロアで自由に過ごして頂いています。全体の行事には参加して頂ける様声掛け実施。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室に来てもらい、希望者は毛染めも出来ます。家族協力で出かけて行って好みにカットして頂く方もいます。化粧品などの購入依頼は適宜対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる方には準備や盛り付け・後片付けを手伝って頂いています。献立の作成も好みを反映し、軟らかく煮る等工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的で栄養バランスを考慮した献立作成し、食事・水分摂取量を記録し全職員が把握出来るようしている。介助を有する方へはこまめな水分補給を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方には、毎食後歯磨き等して頂いている。できない方は、職員が介助し、口腔ケアの重要性を理解している。個別に口腔スポンジ購入。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやパターンを観察して声掛け、誘導、介助、見守りを行っている。さりげなく介助し、本人の負担にならないよう心がけている。夜間見守り強化している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	旬の物・食物繊維の多い食品・乳製品を使用して調理したり、ラジオ体操、レクリエーション、散歩等を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴担当のスタッフによる安全でゆったりと介助支援実施。利用者様の希望の入浴順番、湯かげん、入浴する時間に配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様には自由に休息して頂いている。家で過ごしている時のように、就寝時間も特に決めておりません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が理解しており、利用者様の症状の変化を観察して、主治医報告しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験が活かせる場所を提供し、その人らしい暮らしができるよう支援している。裁縫・家事・衣類の修正も得意な利用者様に協力して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられる支援は厳しい状態である。希望の利用者様は家族の協力のもと、外出して頂いています。散歩・近所への買い物や日光浴程度の外出は希望時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者で可能な方は自己管理している。普段はお金を預かっておらず、必要なものは家族連絡し依頼又は立替えにて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話は自らかけて頂いている。事前に御家族にも不穩時の連絡へは御協力の依頼をしており、対応して頂けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段は静かな過ごしやすい環境である。快適に生活出来るよう個々の居室にエアコンがあり、温度調整を行っている。フロアも常に温度湿度を快適に保っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で過ごせるよう 並んで会話のできるソファを配置した居間空間、居室で語らう等自由に生活して頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスに関しては会社で用意しましたが、馴染みの持ち物を持ってきて頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がすべて行ってしまうのではなく、そばに付き添って声掛けを行い、本人の力を引き出し残存機能低下防止に努めています。		